

公立大学法人 会津大学短期大学部

地域活性化センター

— 地域資源と本学の「知」を活かした地域活性化を目指して —



regional
resources

early
childhood



management

food

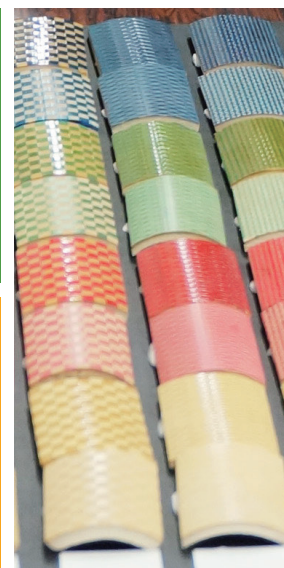
design



social
welfare

university
knowledge

nutrition



regional
activation

supplement

education

information



■地域資源を活かした活力ある地域づくりを目指して

本学は開学以来、地域社会の経済文化の向上を設立使命とし、研究教育に加え、地域研究、公開講座による地域の生涯学習の充実を図るなど知識基盤社会の形成に努力してまいりました。2006年に公立大学法人となり、2007年には、福島県の地域資源を活かした地域活性化を積極的に展開していく組織として、会津大学短期大学部地域活性化センターを開設いたしました。2012年には、東日本大震災とそれに伴う原子力災害からの復旧・復興が喫緊の課題となっていることから「地域貢献に関する基本方針」を決定して本学の地域連携に向けた姿勢を明らかにするとともに、地域活性化センターを中心に、地域や地域団体と連携を図り、複雑・多様化する地域課題にこれまで以上に組織的かつ積極的に取り組んでいくことといたしました。

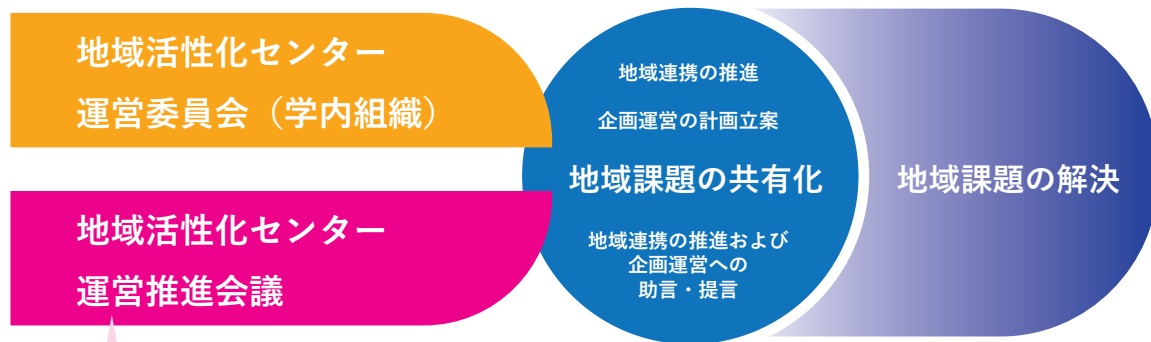
本学には産業情報学科（経営情報コース、デザイン情報コース）、食物栄養学科並びに幼児教育学科があります。当センターは、本学の産業、経営、デザイン、情報、栄養、食品、幼児教育、保育、福祉等くらしに密着した幅広い特色ある専門領域群を活かし、大学と地域社会が連携・共同して課題に取り組むことにより活力ある地域社会を創造することを目指しております。若い学生たちの気づきやユニークなアイディアも活用しながら多様なシーズと地域社会のニーズを融合し、新しい価値観、地域産業、地域社会を創造していきたいと考えております。

皆様と一緒に活力ある地域づくりに取り組むことができますことは大いなる喜びです。今後ともどうぞご支援とご協力をお願い申し上げます。

地域活性化センター長 鈴木 秀子

■地域活性化センターの組織

地域活性化センターの円滑な運営を図るために、学内に地域活性化センター運営委員会を設置しました。また、地域活性化センターが行う事業の企画運営に関して、助言・提言を行うとともに、事業推進および協力し、地域活性化の一層の発展に努めることを目的として、会津管内各市町村及び関係団体等を構成員とした「会津大学短期大学部地域活性化センター運営推進会議」を設立しました。



会津大学短期大学部地域活性化センター運営推進会議 構成団体

会津若松市	下郷町	会津大学短期大学部教育後援会
喜多方市	檜枝岐村	会津大学短期大学部同窓会
北塩原村	只見町	公益財団法人会津地域教育・学術振興財団
西会津町	南会津町	株式会社東邦銀行会津支店
磐梯町	大熊町	株式会社福島銀行会津支店
猪苗代町	福島県会津地方振興局	株式会社大東銀行会津支店
会津坂下町	福島県南会津地方振興局	会津信用金庫
湯川村	福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター	会津商工信用組合
柳津町	会津若松商工会議所	会津よつば農業協同組合
三島町	会津喜多方商工会議所	福島県商工会連合会会津広域指導センター
金山町	公益社団法人会津青年会議所	福島県高等学校長協会会津支部
昭和村	特定非営利活動法人会津NPOセンター	会津大学短期大学部
会津美里町	会津大学産学イノベーションセンター	

■地域活性化センター 5つのプログラム

本学は、1962年に「産業調査室」を設置し、1972年からは公開講座をはじめ、知識基盤社会の形成に努力してきました。2007年4月、これらの活動を統合して「地域活性化センター」を開設しました。2012年に制定した本学地域貢献に関する基本方針を機軸とし、主な活動内容は、各学科・コース4つの専門領域を活かし①地域関連機関（産官民学）との協働・連携を強化し地域の活性化を推し進めること、②地域教育支援活動と生涯学習等の推進により知識基盤社会の形成を推し進めること、③学生参加型実学・実践教育の機会を提供すること、④地域住民へのサービス向上を目指すこと、⑤産官民学との協働・連携機能を高めた運営を推進することの5つのプログラムで成り立っています。

① 地域関連機関との協働・連携事業

主に受託事業として、地域連携機関（産官民学）との協働・連携事業を毎年多く実施しています。

なお、福島県立会津学鳳高校とは「高大連携に関する協定」（2007年2月20日）に基づき、本学教員の高校への講師派遣、本学施設の開放、教育・研究についての情報交換などを実施しています。また、会津若松市に避難している大熊町立小・中学校とも連携を深めることにより、復興を支援するとともに大熊町立小・中学校の教育の質のさらなる向上と活性化を図り大熊町の未来を担う人材の育成に努めることを目的に、公立大学法人会津大学として2013年1月25日に協定を締結し、様々な事業に取り組んでいます。

② 派遣講座・公開講座の実施

本学の派遣講座・公開講座の歴史は1972年に始まり、地域の知識基盤社会の形成に向けて、全国の高等教育機関の中でもいち早く開講してきました。特に本県においては、東日本大震災からの復興が重要課題であることから、震災関連講座を3講座設けて実施しています。主催者の要請に応じて実施していますが、2018年度は13分野93講座のメニューを準備し、155回実施しました。ちなみに、会津・南会津方部での開催件数は全体の59パーセントです。

③ 学生参加型実学・実践教育の推進

卒業研究ゼミや地域プロジェクト演習等の授業の中で、地域連携機関との協働・連携事業に取り組んだり、地域課題をテーマに設定したりして実学・実践教育をおこなっています。また、デザインコンペティションや各種ボランティア活動に積極的に参加しています。2018年度はのべ87件実施しています。（2018年11月現在）

④ 地域のニーズに応える取り組み

「地域実践研究」（2015年度創設）は、多様化する地域社会の課題を解決するため、当センターが中心となって、運営推進会議の構成員等と連携し、地域再生・活性化に寄与する取り組みです。

運営推進会議での意見交換等から発掘した地域課題等について本学教員及び学生が、地域と連携しながら課題解決型学習として取り組んでいます。2018年度は5件実施しています。

⑤ 地域活性化センター運営推進会議

センターの円滑な運営と地域連携事業の充実に向け、会津・南会津管内市町村および関係団体等を構成員とした、「会津大学短期大学部地域活性化センター運営推進会議」を設立し、助言、提言をもとに協働・連携の可能性を追求しています。また、毎年「会津大学短期大学部研究シーズ集」を更新し、本学ホームページ上に公開し、本学教員の研究テーマと地域のニーズとのマッチングに努めています。





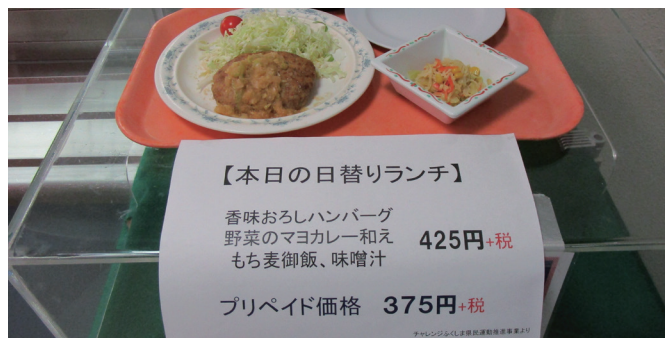
地域活性化センター特別講演会「街を変えるクリエイティブ・クラス～山形ビエンナーレの現場から～」 地域の問題解決や文化資源の利活用に、クリエイターたちのアイデアと情熱を活かすアートマネジメント事例を紹介しながら講演されました。(2018年7月13日)



地域連携機関との協働・連携事業(受託事業)「会津水Café フェスティバル」 水道水の活用方法についての紹介や、水道水の未来を市民協働で守っていく意識を市民全体で共有することを目標とし、「たべる・あそぶ・まなぶ・伝える」イベントを企画・実施しました。(2018年7月16日)



地域連携機関との協働・連携事業(受託事業)「福島県会津地域棚田・そばオーナー」 本学の教員・学生も参加しながら一体となって事業を推進しました。2018年度は柳津町久保田、喜多方市高郷町揚津、会津美里町関山、三島町大石田、下郷町芦ノ原の5地区で行いました。



地域連携機関との協働・連携事業(受託事業)「チャレンジふくしま県民運動 大学と連携した広報・PR事業」 学生食堂や飲食店の喫食者の健康意識の高揚を目的として、学生食堂や飲食店で提供するヘルシーメニューを考案しました。学生が考案したヘルシーメニューは会津大学学生食堂で提供していただきました。



地域連携機関との協働・連携事業(受託事業)「あいづまちなかアートプロジェクト 2018: 会津・漆の芸術祭 × まちなかピナコテカ」 全国の漆芸系大学連携の展示計画を中心に、ワークショップ等の企画と実施、しました。(2018年10月6日～11月4日)



公開講座「木の枝で作るドーム型秘密基地」 小学生がのこぎりで枝を切って、多面体構造でドームを頑丈にしなが、自然素材に親しみつつ、基地という空間表現(インスタレーション)を体験しました。(2018年12月2日)



公開講座「竹材と木材を活用した感性価値デザイン」 デザインの視点から、多面的な加飾による竹材・木材に新たな感性価値を付加することで、それらの活用可能性を広げる事例を紹介しました。(2018年12月8日)



各種デザインコンペ 地域企業や団体等よりポスターやロゴマーク等のデザインコンペ依頼を受け、多くの学生が応募し、採用されています。上図は「末廣酒造頒布会日本酒ラベル」デザインコンペ表彰式の様子です。(2018年12月12日)

◆地域活性化センター特別講演会

・街を変えるクリエイティブ・クラス～山形ピエンナーレの現場から～

◆公開講座

・木の枝で作るドーム型秘密基地
・竹材と木材を活用した感性価値デザイン
・体のつくりを見てみよう！～細胞から組織まで～

◆派遣講座

・地域問題・地場産業に関連する講座：8回
・コンピュータ・情報化社会に関連する講座：8回
・経営学・会計学に関連する講座：8回
・建築・デザインに関連する講座：3回
・工芸に関連する講座：4回
・栄養・健康に関連する講座：36回
・食品・調理に関する講座：2回
・社会福祉に関連する講座：61回
・幼児・児童に関連する講座：25回
合計：155回（2019年2月現在）

◆地域実践研究

・地域社会に向けた教育活動としての造形ワークショップの展開⇨【福島県赤十字センター・社会福祉法人啓和会・福島県会津自然の家】
・JR 只見線学習列車食育弁当の提案⇨【福島県生活環境部生活交通課・有限会社河内屋商店（奥会津観光）】
・少子高齢化時代における地域の子育て支援について（2018 いきいきふれあい合宿事業参考）⇨【いきいきふれあい合宿実行委員会】
・会津若松市立図書館における未就学児対象の『読み聞かせ』研究事業⇨【会津若松市教育委員会会津若松市立図書館】
・会津資源を活用した造形ワークショップの展開⇨【マストロ・ジュッペット・福島県立博物館】

◆地域連携機関（産官民学）との協働・連携事業の実施（受託事業）

・あいづまちなかアートプロジェクト 2018⇨【あいづまちなかアートプロジェクト実行委員会】
・新しいAIZUの美術展⇨【公益財団法人会津若松文化振興財団】
・チャレンジふくしま県民運動「大学と連携した広報 PR 事業」⇨【福島県文化スポーツ局文化振興課】
・健康長寿のための減塩&野菜を食べよう大作戦「簡易型食生活スクリーニング・ツール作成業務」⇨【福島県】
・会津水 Café フェスティバル⇨【会津若松市水道部等】
・グリーン・ツーリズム事業に対する支援⇨【柳津町久保田地区・喜多方市高郷町揚津地区等】

◆会津学鳳高等学校との高大連携

・大学教員を高校に講師として派遣が3回
・教育研究についての情報交換の実施が1回

◆大熊町教育委員会との教育連携

・講師派遣：12件
・体育館やグラウンドを開放、図書館利用証を発行

◆協働・連携 地域関連機関（産官民学）との協働・連携事業・共同研究（教員）

・市民アンケートの調査手法に関する助言⇨【喜多方市】
・小学生向けプログラミング教育⇨【会津若松市立一箕小学校】
・あいづまちなかアートプロジェクト⇨【会津若松市教育委員会】
・第30回会津若松市鶴ヶ城ハーフマラソン大会のポスターデザイン⇨【会津若松市教育委員会】
・道の駅ばんだいのバナーデザイン⇨【株式会社社会津嶺の里】
・JR 只見線食育弁当のパッケージデザイン⇨【福島県生活交通課・奥会

津観光】

・会津水カフェフェスティバルのポスターデザイン⇨【会津若松市水道部】
・桜峠のハニーワインのラベルデザイン⇨【山庄商店・NPO 法人わ】

◆協働・連携（学生参考）

※地域関連機関（産官民学）との協働・連携事業・共同研究で学生が参加しているもの

・会津若松市三地域地域づくりワークショップキャラバン参加⇨【会津若松市三地域地域づくり委員会】
・会津水カフェフェスティバルの企画実施⇨【会津若松市水道部】
・広報あいづわかまつ12月号特集⇨【会津若松市広聴課】
・第2期地域づくり計画策定の支援⇨【湊地区地域づくり協議会】
・漆小法師の制作（あいづまちなかアートプロジェクト）⇨【会津若松市教育委員会】
・JR 只見線ブライダルトレイン（デザイン担当）⇨【JR 只見線交流事業実行委員会】
・路線バスのラッピングデザイン⇨【会津乗合自動車】
・野口英世トリックアート⇨【公益財団法人野口英世記念会】
・あいづっこ宣言 PR デザイン⇨【会津若松市教育委員会】
・水道 PR キャラクターデザイン⇨【会津若松市水道部】
・機能的伝統食材を活用した体脂肪改善の体験活動と健康増進リーダー育成⇨【喜多方市教育委員会、喜多方市立山都小学校】
・少子高齢化時代における地域の子育て支援について⇨【いきいきふれあい合宿事業実行委員会（福島市）】
・JR 只見線学習列車食育弁当の提案⇨【福島県生活環境部生活交通課・有限会社河内屋商店】
・チャレンジふくしま県民運動「大学と連携した広報 PR 事業」⇨【チャレンジふくしま県民運動協議会等】
・造形ワークショップ「ぼんぼんづくり」⇨【社会福祉法人啓和会】
・造形ワークショップ「星を使ったワークショップ」⇨【福島県会津自然の家】
・造形ワークショップ「オリジナル傘を描こう」⇨【福島県赤十字献血センター】
・造形ワークショップ「fit fitter fittest」⇨【会津若松市文化課・NPO 法人あいの里】
・造形ワークショップ「fit fitter fittest」⇨【会津若松市文化課】
・アートプロジェクト「fit fitter fittest」⇨【会津若松市文化課、スペース・アルテマイスター】
・造形ワークショップ「木の枝で作るドーム型秘密基地」⇨【福島県会津自然の家】
・会津若松市立図書館における未就学児対象の「読み聞かせ」研究事業⇨【会津若松市】

◆展覧会 / デザインコンペ

・第72回福島県総合美術展覧会（県展）⇨【福島県・福島県教育委員会等】
・ラジオ番組表紙デザイン⇨【株式会社エフエム会津】
・会津 IT 秋フォーラムのポスターデザイン⇨【会津大学】
・喜多方市たすかりマルシェのロゴマークデザイン⇨【荒川産業グループ】
・末廣酒造頒布会日本酒ラベルデザイン⇨【末廣酒造株式会社】
・あいづ 3010 運動ロゴマークデザイン⇨【会津若松市食育ネットワーク等】

◆ボランティア

・ジュニア・エコノミー・カレッジ⇨【会津若松商工会議所青年部会】
・国際交流フェスティバル⇨【会津若松市国際交流協会】
・南会津町中小屋集落支援⇨【南会津町中小屋集落】
・ドクトル野口健康まつり⇨【野口英世青春通り協議会等】
・ロータス保育園食育⇨【ロータス保育園】
・会津若松市健康まつり⇨【会津若松市健康祭実行委員会】
・食品衛生月間親子料理教室⇨【福島県会津保健福祉事務所】
・ダンスピック・ワークショップ⇨【障害児支援施設・放課後デイサービス】
・あさがおプロジェクト⇨【大熊町社会福祉協議会・大熊町民ボランティア】

◆その他

・第4回ふくしま産業賞「学生銀賞」受賞⇨【福島民報社等主催】

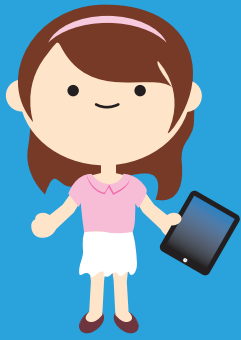
会津大学短期大学の教育組織（学科・コースの紹介）

会津大学短期大学部には3学科2コースの専門領域があり、教育・研究を通して地域社会の産業、生活、文化、健康、栄養、教育、保育、福祉の向上に努めています。

産業情報学科

経営情報コースとデザイン情報コースを配置し、それぞれの視点から今日的課題を見つめ、情報化時代に柔軟に適應できる統合能力を有する人材を育成することを目的とします。

経営情報コース



経営学、商学、会計学、経済学、情報学の各分野を中心に、企業や地域社会に関する体系的・実践的な専門知識を身につけ、情報収集・分析・活用に関する能力や創造的展開・企画・伝達に関する能力を養い、社会的課題の解決を通じて、地域産業の活性化やまちづくりに貢献できる人材を育成することを目的とします。

デザイン情報コース



インターフェース、インテリア、クラフト、グラフィック、プロダクトの各専門分野を配置し、デザイン及び情報の基礎能力を身につけるとともに、より専門性を深め、情報化時代におけるデザイン活動と歴史・文化・環境などに配慮した、モノ・事のデザインができる能力を備えた人材を育成することを目的とします。

食物栄養学科

高齢化や生活習慣病が進行する地域社会において健康を守る食の担い手として「食」と「健康」について広く深く専門知識を身につけ、人々がそれぞれのライフスタイルに見合った食生活をするための指導・支援を行うことのできる人材を育成することを目的としています。加えて、健康食品や食の安全・安心などへの関心の高まりと相まって「食」へのニーズが多様化・高度化する現代社会に即応できる高度な専門知識と実践的な技能を備えた人材を育成することを目的とします。



幼児教育学科

人間尊重の理念に基づき、生活をさまざまな面からとらえることにより、人間社会の中に存在する教育・保育問題を発見する能力や、これらの問題の根本にある本質を見抜き、解決することのできる基礎能力と科学的洞察力を身につけ、地域社会の幅広い分野で地域社会の教育・保育の向上に寄与できる人材を育成することを目的とします。



JUNIOR COLLEGE OF AIZU

お問い合わせ先

会津大学短期大学部 地域活性化センター

〒965-8570 会津若松市一箕町大字八幡字門田1-1

phone 0242-37-2300(代表)

fax 0242-37-2412

e-mail chiiki@jc.u-aizu.ac.jp

<http://www.jc.u-aizu.ac.jp/contribution/center/>

2019年3月発行

発行者: 会津大学短期大学部 地域活性化センター(センター長・鈴木秀子)

デザイン: 高橋延昌

